

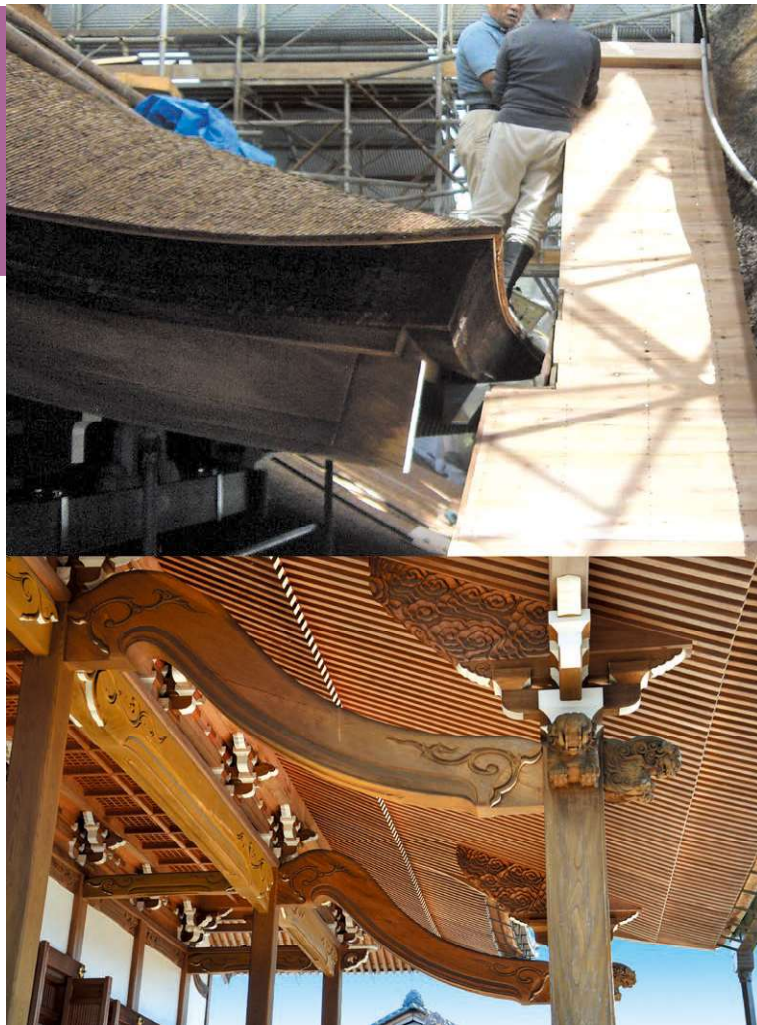
実用的で芸術的な社寺仏閣の世界を守る

ゆうげんがいしゃ ほり お しゃ じ じゅうけん
有限会社 堀尾社寺住建

〒482-0034 岩倉市石仏町京伝杵3
TEL: 090-1272-2153

■会社概要■

(有)堀尾社寺住建は1946(昭和21)年に現棟梁の実父が創業した宮大工の会社です。ただし現棟梁の堀尾さんは宮大工としては祖父、父と続く3代目になります。岩倉市内では五条川小学校の西側にある覚順寺や稲荷町にある浄正寺の建設、鈴井町の円通寺の修繕などに関わっています。また、神奈川県や山形県など全国各地の神社やお寺などの建設・修繕を行っています。



社寺仏閣の建築や補修に携わる大工を「宮大工(みやだいこう)」と呼びます。現在、日本に実在する宮大工の人数は百人以下とも言われていますが、宮大工の会社が岩倉市にあります。

宮大工という仕事

神社の場合、神明社、春日社、出雲大社、天満宮など様式によって社(やしろ)の形が異なりますし、寺の場合は宗派によって様式が異なりますが、宮大工はいろいろな様式に対応します。

仕事は、工場設計・材料の加工などを行い、現場で組み立てるといのが基本的な流れです。設計は間取りから始まります。床に敷いたベニア板に平面図、立面図、矩計図(かなばかりず)、部分詳細図などを原寸図で描いて「型」を表します。この作業が最も大変で、これらの図面ができれば半分はできたようなものです。

次に、使用する木材に尺図絵(しゃくずえ)を描き、これに基づいて材料を加工し、これらの部材を現場で組み立てていきます。昔は柱が多めで、引違い戸がその間にはめられる構造が多かったのですが、近年は耐震強度を上げるために壁が増える傾向にあります。変わらない様式の中で、細部には時代に応じた対応も求められています。

岩倉市覚順寺、名古屋城本丸御殿

五条川小学校の近くにある覚順寺は平

成7年頃から5年がかりで建てたもので100人ぐらいの職人が携わりました。それを取り仕切ったのが堀尾棟梁です。この覚順寺には、社寺建築に用いられる側柱と本柱をつなぐ海老のような形に湾曲した海老虹梁(えびこうりょう)という梁(はり)の種類があります。岩倉ゆかりの人が眺めると鯉のぼりのようにも見えます。それはもう芸術品なので、ぜひ見に行ってみてください。

他にも、名古屋城本丸御殿の第2期復元工事に携わりました。また、山形大学の工学部の校舎の一つに、国の重要文化財に指定されているルネッサンス様式の見事な校舎があり、その修復にも携わりました。

多種多様な道具を使いわけ

宮大工は使う道具も特徴的です。現在は、電動工具と手道具を作業に応じて使っていますが、手道具は特注のものが多くあります。金太郎が持っている「まさかり」や「ちょうな」もそうした類に入ります。ここにある「カンナ」は約50丁、「のみ」は約100本、全て違う種類です。

「原寸図を引いている時が一番楽しい」と語る堀尾棟梁。実父に師事できたのは7、8年の短い間。「もつと」一緒に仕事ができれば違っていたかも知れない。なかなか親父を超えることはできない。でも乗り越えたいと思っています」

堀尾棟梁の挑戦は続きます。

